


避難時の心得

<p>安全な避難路の確認を</p>  <p>避難場所までの経路（避難路）は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。</p>	<p>非常持ち出し品の事前準備を</p>  <p>避難するときの荷物は必要最低限とし、事前に準備しておきましょう。</p>	<p>お年寄りなどの避難に協力を</p>  <p>お年寄りや子供、病気の人などは、早めの避難が必要です。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。</p>	<p>動きやすい格好、2人以上での避難</p>  <p>避難するときは、動きやすい格好で、2人以上での避難を心がけましょう。</p>
<p>正確な情報収集と自主的避難を</p>  <p>ラジオ・テレビで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。</p>	<p>避難の呼びかけに注意を</p>  <p>危険が迫ったときには、役場や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。</p>	<p>高い道路を通りましょう</p>  <p>避難にはできるだけ高い道路を選び、浸水箇所があった場合は、溝や水路に十分注意しましょう。また、がけ地などでは土砂災害に注意しましょう。</p>	<p>万が一、逃げ遅れたときには</p>  <p>万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の3階以上に逃げましょう。</p>
<p>避難する前に</p>  <p>避難する前に、電気・ガスなどの火元を消し、避難場所を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。</p>	<p>速やかに避難しましょう</p>  <p>避難勧告などは、危険が迫ったときに出示されますので、速やかに避難しましょう。避難の際は警察などの指示に従いましょう。</p>	<p>車での避難は控えて</p>  <p>車での避難は緊急車両の通行の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水すると動けなくなりますので、特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。</p>	<p>堤防に車を放置しない</p>  <p>水防活動の妨げになりますので、自動車を堤防や道路に放置しないようにしましょう。</p>

自分の家はどこ？

地図に示されている浸水の危険ランクは、5段階です。自分の家を探して、下の表で家のまわりがどれくらい浸水するのか知っておきましょう。

想定される浸水深	水深の目安
5.0m以上	2階の軒下より上
5.0m未満	2階の軒下までつかる程度
2.0m未満	1階の軒下までつかる程度
1.0m未満	おとなの腰までつかる程度（床上浸水）
50cm未満	おとなのひざまでつかる程度（床下浸水）



浸水深が50cm以上の地区の方は避難の対象となります。

浸水深が50cm未満の地区の方は、避難の必要はないと考えられますが、危険を感じたときは近くの洪水時の避難場所へ避難してください。

このハザードマップは、帯広開発建設部のデータにもとづいて作成しています。

